

氏名	中村裕美	部署	作業療法学科	職名	教授
研究分野	作業療法理論， 地域作業療法学、社参参加と制約、要介護者と家族介護者のQOL				
学位	博士				
学歴	1987年現信州大学医学部保健学科作業療法専攻（旧信州大学短期大学部作業療法学科）卒業　2004年東京都立保健科学大学（現　東京都立大学）博士前期課程保健科学研究科修了（修士第24号（作業療法学））　2009年首都大学東京（現　東京都立大学）人間健康科学研究科人間健康科学専攻作業療法科領域　博士号取得（健博第10号，首都大学東京）				
経歴	2006 年埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科講師　2011年埼玉県立大学大学院博士前期課程リハビリテーション学専修特別研究補助指導教員　2013年埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科准教授、埼玉県立大学大学院博士前期課程リハビリテーション学専修特別研究指導教員　2014年埼玉県立大学大学院博士後期課程指導教員　2015年埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科教授				
所属学会（役職）	QS Intelligence Unit for QS World University of the annual QS Global Academic Survey (Reviewer), British Journal of Occupational Therapy (Editorial board member), The Royal College of Occupational Therapist annual congress and expo (Reviewer), The Evaluation and the Health Professions (Reviewer), Health and Quality of Life Outcomes (Reviewer), BMC Nursing (Reviewer), MDM Policy and Practice (Reviewer), Journal of Child anc Family Studies (Reviewer), BMC Psychology (Reviewr), Work: A Journal of Prevention, Assessment and Rehabilitation (Reviewer), Occupational Therapy International (Reviewer), Frontiers in Rehabilitation Science (Reviewer), Newcastle University (post-doctoral supervirosy role), Yonsei University), Yonsei University (OT BK21 mentoring board), World Federation of Occupational therapy Congress (Reviewer), Japan Journal of Nursing Science (Reviewer),　日本作業療法士協会学術集会(演題査読委員)				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	A new outcome to measure community-living care recipients and their informal family caregivers	単著	あり	IntechOpen: (e-Book: Chapter 4; 16 pages). In Nakano H. (ed) Physical Therapy and Rehabilitation: Research and Clinical Application. https://doi.org/10.5772/intechopen.1011465		○ <u>Nakamura-TH</u>	Online First 2025 July 7th
2	Navigating Caregiving and Work: Key Psychosocial Predictors of Quality of Life amidst Familism in Japan's Evolving Long-Term Care System	共著	あり	IntechOpen: (e-Book, 27pages). In Abreu W. (ed) Pioneering Pathways in Long-Term Care research and Innovation. https://doi.org/10.5772/intechopen.1236147		○ <u>Nakamura-TH</u> , Sano N	Online First 2026 January 2nd
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Association Between Mental Illness and Trajectories of Social Participation Over Time in Community-Dwelling Middle-Aged and Older Couples: A Retrospective Longitudinal Study	共著	あり	○	Journal of Gerontological Social Work. 2026; 69(3): 363-376	Bae S, ○ <u>Nakamura-TH</u> , Hong I	Online First 2025 May 12th
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	Validity and reliability of the Easy Read version of the Adult Social Care Outcome Toolkit, measuring social care-related QoL in people with intellectual issues : Oral presentation	共同	World Federation of Occupational Therapy Congress 2026: Bangkok, Thailand		○ <u>Nakamura-TH</u> , Morikawa M, Moriyama Y, Shiroiwa T, Kyougoku M		2026 Febrary
2	Association of imitations in instrumental activities of daily living on the cognitive function: Using the actor-partner interdependence mediation model: Oral presentation	共同	World Federation of Occupational Therapy Congress 2026: Bangkok, Thailand		Bae S, ○ <u>Nakamura-TH</u> , Hong I		2026 Febrary

3	Social care-related QoL in the pairs of community-living care-recipients and their informal family caregivers in Japan: digital poster presentation	単独	World Federation of Occupational Therapy Congress 2026: Bangkok, Thailand	○ <u>Nakamura-TH</u>	2026 Febrary
4	イラスト併記版成人社会的ケアアウトカムの妥当性検証: 知的機能を理由とした社会的ケアのサービス利用者のQoL尺度: 口述報告	共同	第59回日本作業療法学会, 高松	○ <u>中村裕美</u> , 森川美絵, 森山葉子, 白岩健, 京極真	2025 November
(4) 他. 総説					
	名称	単・共	発表場所等	発表者 (発表者は○印)	発表等年月
1	利用者視点の社会的ケア関連QoLアウトカムの開発	単著	地域ケアリング27(9), 43-48, 2025	○ <u>中村裕美</u>	2025July14
2	介護保険のサービス利用者のサービスへの満足感を高める戦略	単著	地域ケアリング27(13), 39-42, 2025	○ <u>中村裕美</u>	2025Nov12
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金 (挑戦的研究 (萌芽))	自宅で介護保険サービスを利用する認知症者用の社会的ケア関連QoL評価票の創出		研究代表者	2024 June ~ 2027 March
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究B)	社会的ケア関連QOL測定尺度(代理記入式)の開発と地域包括ケアシステムの評価への応用		研究分担者	2025 April~2029 March
3	National Research Foundation of Korea (NRF)	Developing and Comparing a Cross-National Disability Measure for Older Adult Populations across Korea, China and Japan		研究分担者	2021 January~2025 December
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	高齢期作業療法学	○	7	指定した教材のうち授業担当者が執筆した章を詳細に説明したほか 介護保険制度について詳述した	
2	保健医療福祉学際英語 (大学院博士前期課程)	○	12	履修者の研究テーマに即して教材を構築し 履修者の質問や要望に沿う形式で実施した	
3	臨床リハビリテーション研究法 (大学院博士前期課程)		5	アップデートされた国際指針 (CONSORT, STROBE, COSMIN, PRISMA-MA, PRISMA-Ex) に基づき 研究デザインに注力した授業を展開した	
4	I P W論 (専門職連携実践論) ② (大学院博士前期課程)	○	7	科目責任者として分担者の授業も含めて 授業担当者の直近の刊行論文をマテリアルとして用い クライエントのアウトカムを改善するための手段としての多職種連携のあり方を紹介した	
5	I P Wシステム開発論 (専門職連携実践論) ② (大学院博士後期課程)	○	7	科目責任者として分担者の授業も含めて 授業担当者の直近の刊行論文をマテリアルとして用い クライエントのアウトカムを改善するための手段としての多職種連携によるエビデンスを説明した	
6	リハビリテーション教育学Ⅱ	○	5	日本作業療法士協会および日本理学療法士協会が定める臨床実習の手引きを確認した。また客観的臨床能力試験の教育としての用い方について、最新の国際学術雑誌に公刊された論文を用いて説明した	
7	脳機能作業療法学特論 (大学院博士前期課程)	○	4	科目責任者として分担者の授業も含めて 授業担当者の直近の刊行論文をマテリアルとして用い 脳機能をリハビリテーション科学として捉えたエビデンスを説明した	

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床作業療法学技能演習	○	30	臨床家を登用した客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination: OSCE)を運営した 当該科目では作業療法学科として唯一実施している科目であり教材もオリジナルを構築して毎年精錬している
2	高齢期作業療法学演習	○	15	高齢期のクライアントの大半が認知機能障がい呈している現状に鑑み認知機能障がいをもつ人々への作業療法の時間を倍増させた。国外研究者を豪州フェデレーション大学から招聘し ICFに基づく作業療法評価のあり方を概説いただき 演習も実施して 学部学生に新しい学びの場を提供した。国際的機関からゲストを招聘できる学科唯一の科目であるとともに 我が国での誤ったICF活用を正す機会にもなっている。
3	IPW演習		15	当該演習で初めて協業する学生が疎外感を感じない様にファシリテーションを行った また指名されてはいないが同一組織に配属される4グループのSPU側の代表として医療機関の施設ファシリテーターとの調整役を担った
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨地総合実習（身体機能領域）		2025 April-July	臨地実習組織に配属となった学生について その臨地実習指導者との情報交換を行った. 実習終了後のセミナーでは学生の発表内容やレポートに即して成績評定を担当した
2	臨地総合実習（精神機能領域）		2025 April-July	臨地実習組織に配属となった学生について その臨地実習指導者との情報交換を行った
3	臨地体験実習（精神機能領域）		2025 August-September	臨地実習組織に配属となった学生について その臨地実習指導者との情報交換を行った
4	臨地体験実習（身体機能領域）		2026 Febrary-March	臨地実習組織に配属となった学生について その臨地実習指導者との情報交換を行った
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	修士論文	2025 April-2026 March	主指導（指導教員）1名	副指導（指導補助教員）名
2	博士論文	2025 April-2026 March	主指導（指導教員）1名	副指導（指導補助教員）名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	博士後期課程特別研究	2025 April-September	副査役割を拝命した1名の博士後期課程の審議をとりまとめ 先行研究を基に学際的に評価しコメントを呈した	
2	博士前期課程特別研究	2025 April-2026 March	主査役割を拝命した1名の博士前期課程の審議をとりまとめ 先行研究を基に学際的に評価しコメントを呈した	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	高校訪問	都立昭和高校	作業療法理論に基づく健康増進介入	2025July

（２）国、自治体、学術団体等における委員等			
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	越谷市介護給付等の支給に関する審査会	委員	2025April- 2026March
2	QS Intelligence Unit for QS World University of the annual QS Global Academic Survey	レフェリー	2025April- 2026March
3	British Journal of Occupational Therapy	国際学術誌編集委員	2025April- 2026March
4	The Royal College of Occupational Therapist annual congress and expo	英国作業療法士協会年次学術集会演題査読委員	2025April- 2026March
5	Clarivate Accelerating innovation US News Best Global Universoty Ranking	レフェリー	2025April- 2026March
6	Scholarly Research Services Survey	レフェリー	2025April- 2026March
7	OTJR: Occupation, Participation and Health	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
8	International Journal of Rheumatic Diseases	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
9	THE's Global Academic Reputation Survey: Times Higher Education World University Rankings	レフェリー	2025April- 2026March
10	European Early Childhood Education Research Journal	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
11	日本作業行動研究	査読者	2025April- 2026March
12	日本作業療法士協会学術集会	作業療法士協会年次学術集会演題査読委員	2025April- 2026March
13	The Evaluation and the Health Professions	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
14	Health and Quality of Life Outcomes	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
15	MDM Policy and Practice	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
16	Journal of Child and Family Studies	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
17	BMC Psychology	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
18	Work: A Journal of Prevention, Assessment and Rehabilitation	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
19	Occupational Therapy International	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
20	Frontiers in Rehabilitation Science	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
21	Yonsei University	OT BK21 mentoring board	2025April- 2026March
22	Journal of Nursing Science	国際学術誌レフェリー	2025April- 2026March
（３）ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		

(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	入学試験のために任命された役割の遂行		2025April- 2026March
2	全学的委員会及びセンター業務等	院試のために任命された役割の遂行		2025April- 2026March
3	国際交流活動	担当する Zurich University Applied Sciences(ZHAW) の担当者との情報交換に努め 現地開催プログラムについて説明会を2回開催した。3月初旬に2週間開催され た欧州看護コンソーシアムに参加希望の看護学生の安全な渡航のために 現 地担当者との綿密な情報交換を図った。また現地での支援を行った。		2025April- 2026March
4	国際交流活動	渡航グラントに応募があった案件の審査に当たった		2025April- 2026March
5	全学的委員会及びセンター業務等	オープンキャンパスのために任命された役割の遂行		2025April- 2026March
6	全学的委員会及びセンター業務等	情報図書委員会の役割の遂行		2025April- 2026March
7	大学広報活動	指名のあった高校に訪問し模擬授業を実施した		2025July11th
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名		主催	受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			